

国際ロータリー第2580地区（東京・沖縄）

東京武蔵村山ロータリークラブ

Tokyo-Musashimurayama Rotary Club

週 報 No.1709

2006—07年度 国際ロータリーテーマ 「率先しよう」

RI会長 ウィリアム・B・ボイド

国際ロータリー 第2580地区

東京武蔵村山ロータリークラブテーマ

「本来無東西一心は一つ」

2006—07年度ガバナー 小澤 秀



「優しさを」

第35代クラブ会長 小野寺 一昭

4月はロータリー雑誌月間です。

本日の例会
全員クラブ協議会

第1710回
例会
2007.5.9

次回例会案内【5月16日(水)】
カンボジア小学校建設物語
秋川RC 長谷川 安年 様

司会 比留間 孝司 SAA委員長

1709回例会報告（2007年4月25日）

点 鐘

（小野寺 一昭 会長）

斉 唱

我等の生業

来 客

（小野寺 一昭 会長）

地区青少年交換委員 野澤 秀夫 様



幹事報告

（芦川 征史 幹事）

- ロータリーレート変更 4月と同じ 1ドル118円
- 例会日変更
 - ・臨海東RC
 - 7月7日より 毎週月曜（会場の変更はなし）
- クラブ事務所移転（5月7日より）
 - ・池袋ロータリークラブ
 - 豊島区西池袋2-36-ソフトタウン池袋714号
 - （電話・FAXの変更はなし）
- 例会変更
 - ・秋川RC5月10日→ニコニコ夜間例会
 - 17日→15日あきるのJCと合同例会
 - 24日→20～21日親睦旅行
 - 31日→昼間例会
 - 6月7日→休会
 - 14日→ニコニコ夜間例会

出席報告

（田代 純則 出席委員）

会 員 数	出席者数	出席率	前々回出席率修正
34名	29名	88.24%	なし

会務報告

（小野寺 一昭 会長）

- 多摩分区分ガバナー補佐より6月6日退任のあいさつに
何う旨の連絡がありました。
- 国際ロータリー会員増強推進計画の表彰
クラブ用提出書式5/7（月）までにガバナー事務所に
FAX下さい
- 東大和ロータリークラブ35周年式典への御夫人の出
席のお願い

委員会報告

- ロータリー財団委員会
（鳥海 真一 委員）

小野寺一昭会長へボールハリスフェロー認証状と記念
品が届いております。おめでとうございます。

- 青少年交換委員会（峯岸 一郎 副委員長）
交換留学生クアンの早期帰国の確認と今後の予定につ
いて炉辺会合を行いました。
- 青少年交換委員会（石井 源一郎 ホストファミリー）
クアンの帰国に際しクラブから記念品として本人の希
望であるアイボットを贈ります。



◇ 創 立 1972年7月8日 ◇ 承 認 1972年7月20日
◇ スポンサークラブ 東京立川ロータリークラブ
◎ 会 長 小野寺 一昭 ◎ 幹 事 芦川 征史
○ 副会長 比留間 重次 ○ 副幹事 峯岸 一郎
□ 会報雑誌委員長 野島 征 副委員長 原田 友義
委 員 小林均 網代雅男 内野均 後藤正次

◇ 例 会 場 西武信用金庫・村山支店2階
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
◇ 例 会 日 毎週水曜日 12:30～13:30
◇ クラブ事務局
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
TEL 042(520)3251 FAX 042(520)3252
Eメールアドレス t-mmrc@crest.ocn.ne.jp

目標

- 楽しく魅力あるクラブ作り、良き共と奉仕を分かちあう。
- 尊敬する立派な人、心差しを持っている人を育てる、地域日本がよくなる
- クラブの充実と効率化を計る
 - 1) 全てのクラブ委員会全員が参加するよう働きかける
 - 2) 全ての奉仕活動一人々が理解して活動に加わる
 - 3) クラブの組織運営を、もう一度検討変えるCLPの導入
クラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）の目的は効果的なクラブの管理の枠組みを提供することにより、ロータリークラブの充実を図ることです。
- 効果的なクラブの要素
 - ・会員基盤を維持拡大する
 - ・地元地域社会ならびに他の国々の地域社会のニーズを取り上げた奉仕プロジェクトを実施し成功させる
 - ・資金の寄付およびプログラムへの参加を通じてロータリー財団を支援する
- ・クラブの枠を超えてロータリーで奉仕できる指導者を育成する。

方針

- 次年度2008～2009地区大会ホスト役ですので、準備に万全を尽くす
- 会員組織
 - 1) クラブ会員が減少しているのでクラブ全員危機感を持つ
 - 2) 次年度地区大会40人体制で望みます。現在会員34名
 - 3) 2年計画で増強8名 1年目5名 2年目地区大会まで3名
 - 4) 年度のできるだけ早い時期に職業分類調査を実施し、地域社会における来充填の分類を特定する
 - 5) ロータリーの歴史、理念およびクラブと活動を含むロータリーに関する情報を、有望な会員候補者に伝える
- 情報
 - 1) 事業および市民のリーダー、若い人々、他の団体にロータリーの使命およびクラブの地域社会活動に関して定期的に最新情報を提供する。 長期3年計画
 - 2) 新会員がクラブに溶け込めるようオリエンテーション、および教育の過程は、入会后直ちに開始する。
 - 3) 会員を継続して教育することで、会員は常に新しい課題に取り組み、意欲を絶やさずにいることができます。クラブプログラムを少なくとも年に4回実施する
 - 4) 本年度も市民祭に参加し多くの市民に対してロータリークラブの活動をアピールする
 - 5) 情報委員会はクラブの会長経験者の集団であります。経験豊富な指導者的立場にあります。クラブ会員の教育にも力を入れて下さい。会員組織委員会と常に情報交換をして下さい
- 親睦



- 1) クラブ会員の親睦をさらに深めるような機会を提供する
 - ・ロータリーを楽しんでいる会員は、自分が参加しているという実感を持ちやすいものです。
 - ・クラブの親睦を充実させることでクラブの奉仕活動も助長されることです

以上のような事を鑑み同好会を発足する
現在、ゴルフ、麻雀 後2つ程度

○会場運営

- 1) 前年度より継続、好評でありますので、例会毎に会員1～2名程度に3～5分程度の自由なスピーチをお願いする。
- 2) クラブ会員の継続的な教育に関するクラブ・プログラムを少なくとも年に4回以上実施する。情報委員会と打合せ
- 3) 出席者はクラブの充実度を測る主な目安となります。90%以上100%目標
 - ・欠席分をメイクアップするよう会員に奨励する。
 - ・新会員に出席の重要性を強調する

○職業奉仕

- 1) 四つのテストを大事に今こそ職業奉仕の時倫理感、内容の理解

○社会奉仕

- 1) ゲートボール大会第20回を最終大会とします。
- 2) 武蔵村山少年野球オールスター東西対抗戦
- 3) 中学生対象職場体験職場提供、感想を聞く
 - ・財団補助金の制度活用、費用の半分返ってきます。

○国際奉仕

- 1) 世界社会奉仕
 - ・WCS情報の入手、インターネットで調べる
- 2) ロータリー財団
 - ・年次プログラムの寄付目標を1ヶ月1,000円位の献金で年米貨100ドル以上の寄付を行う
 - ・ロータリー年度の早い時期（上半期12月末まで）に財団に寄付する
- 3) 米山奨学
 - ・日本最大の奨学制度事業の現況報告



ニコニコBOX (小林 均 親睦委員)

- ☀ 野澤秀夫様（東村山RC）いつもお世話様です。特に今年度クアンお世話下さり感謝申し上げます。
- ☀ 小野寺一昭会長⇒野澤秀夫様、地区少年交換委員会でお世話になりました。これからもどうぞ宜しくお願いします。
- ☀ 芦川征史幹事⇒青少年交換地区委員の野澤さまようこそおいで下さいました。クアンさんの件よろしく申し上げます。
- ☀ 野島征会員⇒大変申し訳ございません早速させて頂きます
- ☀ 藤野豊会員⇒野澤さん、ようこそいらっしゃいました。
- ☀ 皮多野稔会員⇒地区「友」委員会のご協力を賜り又、青少年交換地区の委員長として大変なお世話になりました。
- ☀ 田中伸彦会員⇒先週一週間、長男と2人で社会勉強の為にアメリカに旅行に行ってきた。初めてのアメリカ大陸で何もかもとてつもなく大きく、ただただおどろくばかりでした。

◆今回計22,000円 累計1,299,000円



田中 伸彦

4月25日(水) 例会12:30~13:30
「地区協報告」「次年度会長方針発表」
26日(木) []
5月 2日(水) 休会(定5-1)
9日(水) 例会12:30~13:30「第11回クラブ全協」
[]
16日(水) 例会12:30~13:30「卓話」
[]
18日(金)~21日(月) 親睦旅行
5月30日(水) 例会12:30~13:30「卓話」
[] 出
6月 事業計画まとめ、原稿作り、調整、
予算調整、計画、
予備理事会

藤野 豊

部門別協議会に出席したが特に成果なし

宮崎 恒夫

小澤ガバンにより、増強の難しさについて卓話があった。(パブル時に、会員が急拡大し、その後約10年間で減少が続いたが、入会審査に問題があったのではないかと。今年は少し増えている。)増強はあせらずに入会申込後2~3ヶ月程度待ってもらう位の考えで良い。増強よりも、現在在籍中の会員の退会を防ぐ事が大切である。新入会員に対しては、例会場で必ず紹介者の他に、カウンセラー的な人が新入会員の悩みを聞くようにする。又、奉仕活動をクラブで活発化させる事。
女性会員の入会については、前向きに考えているので、現在女性会員の多いクラブに、入会方法他ノウハウを聞きたい。又、多摩分団に女性会員がいないのは、地域性があると思われる。(この点について、沖縄のクラブ代表から、女性会員入会について、躊躇している時ではないと厳しい意見があった。)
他クラブ代表から、増強について年間何名を入会して頂くか目標を立て、商工会、法人会、特にJC等には、候補者がいると思うので、リストを作り、入会活動をクラブ全体で行うと良い。
又、入会時には、入会金、会費、寄付行為、出席義務、奉仕活動について、詳しく説明してから入会してもらう事。

波多野 稔

私達ロータリアンは、職業社会の状況がどのように変化しようとも、常に、職業というものは本来如何にあるべきか、職業社会は如何にあるべきか、という本質を観る目を失ってはならないと思うのであります。
これは、まさに理念の問題であり、「目に見えない世界」「本質の世界」の問題であります。
ロータリーは、一つの運動体であります。その運動体の目指すものは倫理運動であります。
ロータリーは、権力によってその目的を達成しようとするものではありません。

石井 源一郎

服部渕PGがカウンセラーとして基調講演を行った。内容はロータリアンらしい奉仕の実践を工夫して下さいとお話であった。その後伝達事項を志賀委員長が長々としたため、ある委員から文章で案内するよう要望があった。次に社会奉仕活動報告が地区補助金を受けた、当クラブを含む10クラブからありました。その内環境保全問題を取り上げたのは当クラブのみでした。新年度の活動計画等の発表はなく結果報告に終わった。カウンセラーからも結果でなく計画を聞きだしたとの意見がありました。

見延 壽昭

※ロータクトは難しい
・提唱のクラブも減っている
・実際のロータクトクラブも減っている
・18~30才だけれども大学生のキーマンがいなくて難しい

比留間 孝司

まずは古宮ロータリー財団委員長より挨拶。続いて、年次寄付・恒久基金への協力要請、世界フェロシッププログラムの説明がなされました。
地区補助金については、個別プロジェクトの適格性に関して、参考事例を列挙するなど特に詳細に説明がありました。当クラブも本年度は環境問題のキャンペーンで補助金の支給を受けたこともあり、個人的にも興味深く勉強できたテーマだったと思います。

インターアクト委員会は、新世代部門、3委員会の中の一つで3委員会合同で行われました。インターアクトは14歳から18歳までの中学・高校生のリーダーシップを育成する常設プログラムで、全世界117カ国、9,661クラブ、2万2203人の会員がいて、2580地区では現在、東京地区6校、沖縄地区6校が提唱しています。

今回の会議での意見としては、これから提唱したいというクラブもありましたが、現在提唱しているクラブではお金がかかりすぎるから地区で何とか考えて欲しいという意見もありました、それは通常ではほとんどお金は掛からないのですが、地区大会などが沖縄で行われると、その旅行費用の負担が大変だという事でした。

その他、何か大変な事はありますか?と質問した所、委員長のお答えでは、学校の先生とのコミュニケーションが大事で、それほど大変な事は無いので、是非多くのクラブで提唱して欲しい、またそれをスムーズにするには、学校の理事長または校長にロータリークラブに入会してもらい、ロータリー活動を理解してもらえば、会員増強にも繋がり一番良い事だとの事でした。ただ、カウンセラーの前川バスターはインターアクト・ロータクトに関しては否定的な意見を述べていたと感じました。

石井 賢司

国際奉仕部門分科会はカウンセラーに指田勢朗バスターを迎えて次の4部門について各委員長から主旨説明がなされた。

4部門とは、
・国際奉仕委員会
・世界社会奉仕委員会
・対人地雷の除去委員会
・青少年交換委員会

それぞれ各委員長より方針説明がなされた。総括的内容としては

① 地区委員会としては特別な事業を行なうことはなく、各クラブの委員会の運営がスムーズに行なえる様情報提供や資料の収集を行なう
② 2580地区の世界社会奉仕は、バギオ基金と対人地雷除去の奉仕活動である。対人地雷除去の奉仕はあと4年をもって事業を終了する予定なのでご協力いただきたいと話があった
③ 青少年交換委員会からは、ホストファミリーについて会員の中で受けることが困難になって来ている現状を考えて、委員会としてもホストファミリーの対策を検討している。1案として会員以外でのホストファミリー希望者を認める方向でいる。又、留学をした生徒の家族にアンケートしたところ全員が留学生をホストファミリーとして受け入れても良いとの回答があったので、今後のホストファミリーについてはあまり心配はしていない。との答えであった。

【この発言はわがクラブでも今後充分検討して広く市民からホストファミリーを募ることを研究する必要があると感じました】
以上地区協報告といたします

後藤 正次

財団法人ロータリー 米山記念奨学会は、勉学・研究を志して日本に留学している外国人留学生にたいし、日本全国のロータリークラブ会員寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間最大の奨学財団です。

国際理解と、相互理解に努め、国際親善と交流を深めるため優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献することを目的としています。学生は奨学期間中に例会やロータリー奉仕活動に参加することにより、社会参加と社会貢献の意識を育て、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。

世界で活躍する米山学友の報告

母国を代表するリーダーとして 駐日韓国大使
ロータリアン 韓国 台湾 ガバナーとして活躍
医療関係 政治・経済 教育

各分野での学友の活動が今後特に期待される

年間支給額 約12億5千万円

過去 約40年で106ヶ国13,322名

平成10年 1100人

平成15年 1000人

平成17年 800人

と減少の傾向にあります。協力をお願いします。